



遠藤拓郎教授のご逝去を悼んで

生物学

生物生産学部 松田 治



生物生産学部の遠藤先生（水産環境学）が去る10月3日心不全により急逝されました。9月下旬まで豊潮丸船上でお元気に海洋観測の現場指揮を執られ、机の上には校正中の原稿が遺されるという突然の悲報だけに、無念極まりないものがあります。

先生は東京大学大学院より昭和32年本学水畜産学部（生物生産学部の前身）に赴任、以来30有余年にわたり水産海洋学、水産環境学の研究と教育に大きな成果をあげられております。瀬戸内海の一次生産の研究を通じて、当初より海洋生物生産と水域環境の問題に着

手され、一連の研究はその後顕在化した瀬戸内海の汚染、特に赤潮発生と富栄養化機構の解明に寄与するところ大でした。また先見の明をもって国際インド洋調査、国際生物学事業計画（IBP）等に参画し、留学生の指導を含め国際研究協力にも尽力されました。

多くの人々に敬愛された自由な精神と優しいお人柄を象徴するような、あのユーモアや明るい笑いもう聞けなくなっていました。享年57歳、法名「海洋院成学日拓居士」。あまりに若くして突然逝かれた遠藤先生、心より御冥福をお祈りいたします。



波多野修次先生のご逝去を悼んで

工学部

工学部 茂里 一 紘



本学名誉教授波多野修次先生は去る10月29日午後10時すぎ、胃ガンのため亡くなりました。65歳でした。

先生は2年前に退官されたばかりで、退官後も時々研究室を訪ねられたり、学会や研究会にもお元気なお姿で出席させていただきに、急な知らせに誰もが信じられない思いでした。

先生は、昭和21年、名古屋帝国大学工学部物理工学科をご卒業後、ただちに、本学工学部の前身である、広島工業専門学校にご着任になり、以後、ご退官まで実に40余年にわたって、本学の教育研究に携わられました。

先生は実に温厚な方であられました。ご研究においても、決して、人と激しく論争されることはなされませんでした。困難な問題に着実に取り組まれました。昭和30年代、当時としてはかなりのペースで、波と摩擦抵抗に関する論文を次々と発表されました。それらは、後に3次元乱流境界層の研究に発展しましたが、そのご研究は船舶流体力学の分野において今なお高く評価されております。

10月31日、各界で活躍中の多くの教え子やご友人に見送られてお葬儀がとり行われました。先生、どうぞ、安らかに眠り下さい。